

一、試製魚雷丙

第三目 昭和五年初頭未成新魚雷

本魚雷ハ二氣筒式機關ヲ有スルモノニシテ驅逐艦用近距離高速魚雷トシテ適切ナルモノト認メ目下吳工廠ニ於ケル試製五個ニ就キ試發射中ナリ尙本年末ニ完成豫定ノ十個ヲ以テ昭和六年度驅逐艦ヨリスル實驗發射施行ノ豫定ナリ

本魚雷ノ要目次ノ如シ

二、試製魚雷丁

魚雷外徑 六一糎 全長 八、五五〇米 全重量 約一、五噸
 能力 七五〇〇米—四五節 一〇〇〇〇米—四一節一五〇〇〇米—三三節

本魚雷ハ試製魚雷丙ト同様式ノモノニシテ昨年六月潜水艦ヨリスル實驗發射ヲ施行シ大要左記ノ如キ結論ヲ得タルヲ以テ本年度ハ右實驗發射ノ所見ニ基キ改良ヲ加ヘタル假稱八九式魚雷(試製魚雷丁ト同一ノモノ)ニ就キ驅逐艦ニヨリ實驗發射ノ豫定ナリ

本魚雷ノ要目並ニ六年式魚雷トノ比較次ノ如シ

要目			魚雷列	假稱	八九式	六年式
魚雷外型(糎)			五三			五三
全長(米)			七、一五〇			六、八四〇
全重量(斤)			一、六七〇			一、四六〇
炸藥量(斤)			三〇〇			二〇〇
空氣壓力			二一五			一七五
速雷(節)						
一〇〇〇〇			三四			三二
六〇〇〇			四二			三九
五〇〇〇米			四四			/

三、BY式魚雷

本魚雷ハ長崎兵器製作所試製ノ内火式機關魚雷ニシテ兵器トシテノ價值ヲ審査スル爲昭和四年九月驅逐艦浦波ヲ以テ實驗發射ヲ試行セリ結論左ノ如シ

(一) 耐力

吹雪型驅逐艦々速三二節正横直進發射ニ堪ヘ得ル強度ヲ有ス

(二) 能力

計畫能力ハ現用魚雷ニ比シ格段ノ進歩ヲ認ムルモ實施之ニ伴ハザルハ次記確實性ニ缺クル所アルニ起因スルモノト認ム

(三) 確實性

四回ノ發射中調定距離ヲ完全ニ駛走セルモノ一モナク一般ニ駛走中雷速整定セズ且終期ニ近クニ從ヒ遞下シ確實性ニ乏シキハ其ノ原因點火裝置系統ノ故障ニ依ルモノニシテ特ニ改造ヲ要スル重點ト認ム本實驗中機構ノ一部燒損セルニ鑑ミ高雷速魚雷トシテハ其ノ機構ニ於テ尙改善ノ餘地アルモノト認ム

(四) 取扱ノ難易

本實驗ニ於ケル魚雷ノ取扱調整ハ主トシテ長崎兵器製作所員之ニ當リシモ起劔裝置點火裝置等構造複雑ナルヲ以テ現用魚雷ニ比シ稍々困難ナリト認ム之ヲ要スルニ本魚雷ハ未ダ確實性不十分ニシテ兵器トシテノ價值ニ乏シキモ内火機關魚雷ニ適用シ現用魚雷ニ比シ著ルシク能力ヲ増進セシメタルハ眞ニ世界的發明ト稱スベク將來内火機關進歩ノ狀勢ニ鑑ミ適當ナル研究ヲ續行シ以テ其ノ完成ニ努ムルノ要アリト認ム

(備考) 右ノ外、試製魚雷甲(電池推進魚雷)同戊(航空機用魚雷)等アリ次節特種用魚雷ノ部ニ掲記ス